

学生教育

先日、勤め先の大学から永年勤続の表彰状を頂戴した。大学に奉職して20年以上が過ぎたようだ。

大学とは学術研究及び教育における高等教育機関であり、高等教育機関として、教育・研究・社会貢献を使命と役割としている。多くの大学教員は、研究活動にいそしみ、知識基盤社会における国力となる「知」の創造においては、基礎研究から応用研究までにわたり、研究を行ってきた。また、(世界最高水準の)研究を行いたいという希望も持っている。しかしながら、最高学府としての最も重要な使命は、次世代を担う学生の育成ではないだろうか。

読者も御存じのように、現在、世界の高等教育は急激なグローバル化が進み、競争環境のもとで、学生や教員の流動性も高まっている。また、中国に代表されるアジア及び東南アジアの国々ともに成長戦略し高等教育への投資に力を入れている。一方、我が国においては少子高齢化が急速に進行し、2018年の18歳人口は約117万人であるが、その6年後には110万人以下に減少し、今後20年以内には100万人を割り込むことが確実となっている。更に、我が国の財政は、平成29年度末の国債残高が約860兆円となる見込みなど、国際的にも類を見ない深刻状況にあり、財政健全化が喫緊の課題になっている。産業の発展、国際競争力のためには、我々は何を行う必要があるか？ その一つが次世代を担う若者の教育と育成であると思う。

次世代を担う学生と接する中、将来の夢、就職のこと、将来の自身の在り方など、不透明で、夢が見えない学生が多いことに気づく。我々のような地方大学においては、多くの学生は関東近県、首都圏に就職したいと願うが、その理由は必ずし

も明確ではない。筆者は高分子材料、プラスチック材料の成形加工を教育・研究の一つにしているが、学生は必ずしも将来、この関連分野に就職を希望しているわけでもない。筆者が学生の頃も、具体的な夢を持ちながら就職活動を行ったかは甚だ疑問ではあるが、新たな分野へ挑戦した同級生の存在など、現在の学生と比較して、目標と夢を持っていたと記憶にある。現在の学生に、将来の夢や希望を持たせるため、そのための教育や社会構築が、我々先人たちの役割であると思う。

最近、筆者の研究室の学生がプラスチック成形技能士(射出成形)の2級に合格した。学生が自ら希望して受験し、努力を重ねて、この合格をつかみ取った。後日、学生らの日々の研究活動以外で、休日のわずかな時間で成形を勉強し、トレーニングしたことの努力を聞いた。指導教員として非常に喜ばしく、また誇りに思うことである。学生が自身で目標を立て、そのために努力すること、またその重要性を学生が経験できたこと、今後のかけがえのない体験になったと自負している。若者にこのような機会を与えることも教育者としての使命であると感じている。

更に最近、「努力は夢中に勝てない」という言葉を聞いた。夢中になれることを見つけて取り組むことが、仕事や充実した生活を営むために重要であるという。その夢中になれるものが見つからないなら、いろいろと試行錯誤し、身体を動かすしかない。我々教育者も、自身の研究分野に夢中になり、更に夢を語ることが教育者として不可欠である。我々の夢中が学生に伝わり、また学生が新たに夢中なるものを見出してくれる時、我が国の技術発展は更に続くと感じている。

伊藤浩志(山形大学)